



遊湯

ゆるり旅

大分県・九重町
壁湯温泉

旅行作家 野添ちかこ



川沿いの壁湯天然洞窟温泉。ぬる湯だから長く入っても湯疲れしない。リピーターが多い人気の秘湯

350年、こんこんと湧く 老若男女が集う川べりの湯



馬刺しやさしみこんにゃく、肉質4等級以上の豊後牛「おおいと和牛」の陶板焼きなど、地場の料理を味わえる



貸切風呂「隠り国の湯(こもりくのゆ)」。宿の蔵を解体した際の切り石を利用して、98年に完成。作家・森まゆみ氏が命名

壁湯天然洞窟温泉 旅館 福元屋

2023年1月時点

住所:大分県玖珠郡九重町町田62-1 Tel:0973-78-8754 客室数:9室
料金:1泊2食付き1万9,950円~(消費税・入湯税込み、1~2名1室利用時の1名料金)
アクセス:JR久大本線豊後森駅から車で15分、または大分自動車道・九重ICから車で10分

長く入らねば語る事が
できない神秘の湯の力とは

「半刻入らずして壁湯を語るべからず、一刻入つて體に問うべし」

大分県・壁湯温泉に残る言い伝えだ。半刻とは一時間、一刻は二時間のこと。長時間入ればのぼせてしまいそうだが、壁湯温泉は湯温38~39℃のぬる湯。冷たすぎず熱すぎない絶妙な湯加減で、岩の隙間から350年以上「こんこんと湧き出ている」。

旅館「福元屋」の客室に備え付けられた湯浴み着に着替え、露天風呂へ。玄関から30秒もかからない場所だが、俗世から離れて自然の中へと誘われる。

ごつごつとした岩が半洞窟のように覆い、じんわりと温かな湯が身を包む。すぐ横を筑後川の源流・町田川が流れ、清々しい溪流の音に体のこぼりもほどけていく。

30分するかしないうちに細かい泡が体中に付いて、不調のありがたき出ます。さらに長く入っていると体の力が抜けてきて、まるで無重力空間にいるような不思議な感覚に。ぬるく、肌への刺激も少ない湯だが、湯上がりの体はホカホカだ。

「肌荒れやあせも、リウマチ、胃腸病、やけど、アトピーなど医者知らずの湯です」と館主の岐部栄作さんは言う。地元の人はこの湯に

足繁く通い、不調を癒してきた。

立ち寄り入浴料金は400円。「料金を上げるつもりはありません」と館主。安く設定しているのは地元の湯客を大事にしている証だろう。15年ほど前に訪れたときは、川沿いの湯船に入りながら釣りをする人、温泉に木の板を浮かべて弁当を食べる人がいて、おおらかな雰囲気、驚いたものだ。混浴だが湯浴み着やタオルを巻いて利用できるから入りやすいのもいい。家族風呂や女性専用風呂もある。

料理は女将が手作りする田舎会席。「原木椎茸は香りと味が違います」と館主が胸を張っておすすめる肉厚の椎茸は、陶板焼きや天ぷらでいただく。馬刺し、やさしみこんにゃく、ヤマメなど山里ならではの滋味に大分産の焼酎がよく合う。山椒のタレなど調味料もすべて手作りで好感がもてる。

一番の驚きは「飯がもちもちで香り高く、甘かったこと。明治の頃からの種を保存した「香り米」は、福元屋が6反の田んぼで自家栽培しているものだ。真っ黒で背が高い香り米は単体では倒れてしまうため、田んぼで「ひとめぼれ」とブレンドする。この米をモミのまま保存して都度精米することで、一年中香り高いお米を宿泊客に出せるそうだ。

ロビーには地元の焼酎が置いてある。この「お酒そわけ」は「お酒をおすすわけします」という粋なサービス。宿の心遣いに感謝しながら一献傾けたい。



巻末のアンケートにご記入の上ご応募ください

読者プレゼント♪ 2名様

有田焼 小物セット

手描きで花が描かれた有田焼の特注品。爪切り&栓抜きと、洗面台や流しに置くだけで高級感が漂う排水口カバーを、かわいい巾着付きで2名様にプレゼント。(柄はお任せください)



香り高く、甘み強い自家製米は釜炊きでピカピカ



客室は古民家風の落ち着いた雰囲気



朝は囲炉裏端でコーヒーのサービスがある



笑顔が素敵な館主の岐部栄作さん